

## 基 調 講 演



テーマ：山陰における過去の津波履歴の調査

講 師：島根大学大学院総合理工学研究科  
准教授 酒井哲弥

### 略 歴

1997年3月 大阪大学大学院理学研究科修了  
1997年4月-11月 日本学術振興会特別研究員(京都大学)  
1997年12月-2002年8月 京都大学大学院理学研究科 助手  
2002年9月- 現在 島根大学総合理工学研究科 准教授(2007年3月まで助教授)  
(専門は地質学, その中でも主に堆積学)

### 研究活動・著書他

藤原 治・増田富士雄・酒井哲弥・布施圭介・斉藤 晃, 1997, 房総半島南部の完新統の津波堆積物と段丘形成との関係. 第四紀研究, 36, 73-86.  
Sakai, T., Fujiwara, O. and Kamataki, T., 2006, Incised-valley-fill succession affected by rapid tectonic uplifts: an example from the uppermost Pleistocene to Holocene of the Isumi River lowland, central Boso Peninsula, Japan. *Sedimentary Geology*, 185, 21-39.  
酒井哲弥, 2013, 須々海海岸. 島根地質百選編集委員会(編), 島根の大地みどころガイド, 94-95.  
酒井哲弥・丸山美智子, 2013, 中新統牛切層に見られるユニークな海底地すべり堆積物. 山陰地域の斜面災害編集委員会(編), 山陰地域の斜面災害, 219-222.  
Sakai, T., Furukawa, A. and Kawano, S., 2013, Stepwise environmental changes in the lower Miocene Koura Formation, southwest Japan, associated with Japan Sea evolution. *Jour. Geol. Soc. Jpn*, 119, 285-299.  
酒井哲弥, 2015, 斐伊川の地形とその時間変化. フィールドで学ぶ斐伊川百科, 148-157. など

### 講演概要等

2011年の東北地方太平洋沖地震に伴う津波被害の衝撃は日本海側での津波被害に対する危機感を高めた。日本海沿岸地域の中でも山陰地域はそもそも津波の影響を受けにくい地域ではあるが、境港や松江市美保関町、隠岐諸島には、1833年山形・庄内沖地震に伴う津波襲来の伝承がある。また、日本海中部地震の際には、場所によって2mを越える津波が襲来している。これまでに襲来した津波波高のデータやシミュレーションの結果から、日本海東縁で発生した津波の波高が、島根半島の周辺で局所的に高くなることが知られている。このことは山陰地域における、津波への対策の必要性を示している。今後の山陰地域での津波防災を考える上では、何年前に、どのくらいの規模の津波が襲来したかを、基礎的な情報として把握することが重要である。そのためには海岸に隣接する平野において、地下の堆積物を採取して、津波堆積物の有無を調べる必要がある。

これまでに実施した調査では1833年に襲来した津波に由来すると思われる堆積物が米子市大篠津町から見つかり、1800年代前半の海岸線の位置から1kmほど内陸の地点にまで、その堆積物が広がることが示された。このほかにも鳥取県内の数カ所から津波由来の可能性のある堆積物が検出された。現在は日本海地震・津波調査プロジェクト(文科省のプロジェクト、東大・地震研が主導)の一環として、島根県、鳥取県での調査を実施している。この講演ではこれまでの調査成果に加えて、調査方法や津波由来の堆積物をどのように認定するかを解説する。